



寺院名物シリーズ④ 「寺号認許状」 浜田組 金藏寺

寛文5 (西暦1665) 年、第5世住職西玄への寺号並びに木像阿弥陀如来像下付の認許状である。今年で、寺号公称360年に当たる。



編集 御同朋の社会をめざす運動
山陰教区委員会
発行 山陰教区 教務所
〒690-0002 松江市大正町4-43ノ1
本願寺山陰教堂
TEL 0852-214747
FAX 0852-274747
利信
発行 利信

実践運動の今後の展望

御同朋の社会をめざす運動
山陰教区委員会副委員長
中央委員会 委員

須山成顕

新型コロナウイルス感染症の流行も落ち着き、世界もこれまでと変わらぬ日常に戻ったように感じます。

宗派においても今年 (令和7年) 4月16日付「新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え) に関する総局見解」が示され、これまで宗門内で混乱の中心となつた「新しい領解文」に係る施策は行わないと、実質的な取り下げを明示され、その混乱も落ち着きを取り戻しつつあるように感じます。

ちょうど今年には戦後80年にあたり、宗門内外でもさまざまな非戦平和に関する催しが開催・計画されています。

しかしながら世界の情勢を見ますと、未だロシアのウクライナ侵攻による争いは終息が見えず、イスラエルのガザ地区への侵攻は激しさを増し、世界中で多くの紛争が後を絶つことなく罪なきいのちが失われ続けています。

宗門内でも戦争問題をはじめ人権、貧困、性差別等、取り組むべき問題は山積みです。

今年度の第一回「御同朋の社会をめざす運動(実践運動)」中央委員会において、宗門重点プロジェクト「実践目標「貧困の克服に向けて」の推進状況、戦後80年を機縁とした平和貢献策の展開、宗門におけるジェンダー平等の推進についての報告、また宗門内において発生した、テレビ番組中に過去帳内部が映り込んだ事案に関し、改めて過去帳の扱いに対し厳重な個人情報保護の保護に努めるよう要請がありました。

また、今年度も高岡教区から宗派に対し、真宗教団の戦争協力歴史に学ぶ研修の方向性を示すよう意見具申が示されました。高岡教区では毎年宗派に対し、教団の戦争協力の歴史や靖国問題、非戦平和についての意見具申がなされているようです。

私たちの山陰教区内においても靖国問題をはじめ、さまざま

な社会問題に実践的に取り組まれている方が多くおられます。その活動を発信し、ぜひ各組、各教化団体、教区委員等の中から声を上げ宗派に対し問題提起をしていただきたいと思います。

問題提起をしないということは宗派に対し問題意識はない、あるいは宗門の取り組みに満足しているという意思の表明にほかなりません。

実践を粛々と行っていくことももちろん重要ですが、その実践を発信していくこともまた重要なことだと思います。その発信から、またより多くの者が関心や問題意識を持ち、それがまた社会貢献の実践として広がりを持つことにつながります。

宗派に対して意見具申・問題提起していくことによつてさらに大きな実践への広がりを期待することができそうです。

教区皆で手を携え情報を共有し、共に学び共に悩む実践への歩みを進めてまいりたいものです。

仏教婦人会連盟 実践運動研修会

期 日 3月10日 (月)
会 場 ビッグハート出雲
参加者 81名

出雲市のビッグハート出雲白のホールを会場に、実践運動（御同朋の社会をめざす運動）研修会を開催いたしました。講師に仏教婦人会総連盟元事務局長、飯南組西雲寺住職の榮俊英師をお迎えし、「仏教婦人会活動の意義とは〜心豊かに生きる〜」と題しお話いただきました。

新型コロナウイルス感染症拡大以降、思うような活動ができないままに休会や退会される仏教婦人会が増えました。講師から、仏教婦人会の成り立ちやこれまでの歴史、意義についてわかりやすくお話をいただき、今後の仏教婦人会活動が盛りあがる良い機会となりました。



少年連盟 子ども・若者ご縁づくり指導者研修会

3月12日（水）に開催。今回も昨年度と同じく、少年連盟と子ども若者ご縁づくり担当の合同で研修会を開催いたしました。

お寺で子どもと接するときや法話のとき、どのように説明すればいいか困った経験は誰にでもあると思います。また、子ども向けの案内状を作成する際に興味を持ってもらえるようにと、さまざまな苦勞をされていると思います。

江津組光善寺（波積）住職の波北顕師を講師にお招きし、講義をいただきました。

講義では、講師が子どもと接する際、実際に気を付けている点や、専門用語を使わずに法話をするときの工夫などを詳しく説明していただきました。

後半の案内状作成では、3つのグループに分かれて、「花まつり」「サマースクール」「子ども報恩講」をテーマに案内状を作成いたしました。

「花まつり」班は、各自で絵を書き、それを切り抜き、模造紙に貼りつけて案内状を作成しました。また「私もあなたもおめでとう」など印象に残る言葉を

書き、工夫していました。

「サマースクール」班は、有名テレビ番組のタイトルをオマージュして「八月だよ！全員集合」と、子どものみならず大人も興味を引く案内状を作成しました。

「子ども報恩講」班では、親鸞聖人が好きな小豆を用いた「ぜんざい」を勤行後に作ることを企画しました。案内状の中に、よくある質問を書くという工夫がなされていました。

どの班もさまざまな工夫を凝らして、非常に参考になる時間でした。

講義の後、案内状を出す際の工夫点などを話し合う場を設け、今後に活かせる有意義な時間でした。



組重点プロジェクトリーダー・サブリーダー研修会

期 日 3月28日(金)
会 場 本願寺山陰教室
教化センター 研修室
参加者 16名



組重点プロジェクトリーダーとは、実践運動の重点プロジェクト(実践目標を定め年限を区切って取り組む計画)推進にあたり、組で中心的な役割を担って頂くために令和2年度から設けられた役職です。実践運動山陰教区委員会では、コロナ禍の2年間で除き毎年1回、宗門共通の実践目標であ

る子どもの貧困問題について学ぶことを目的に研修会を開催しています。今年度は、NPO法人緑と水の連絡会議副理事長の高橋賢史 先生にお越しいただき、「青少年の居場所・ホッとするスペースゆきみーるの実践より」をテーマに講義をいただきました。先生は大田市を拠点に子どもたちの心の居場所づくりを目指して、子ども食堂の開設、不登校など困難をかかえる若者の支援、社会体験や就労体験等の活動を続けておられます。講義では、居場所(「安心感が第一、スタートは過ごすことだけでよい場所」)での実践や若者の声、求められる支援内容についてお話をいただきました。現在、山陰教区の取り組みとしては、子どもたちの笑顔のために募金やフードバンク、エコキャップ収集が主な活動となっていますが、今後は地域で活躍されている他団体と連携を図っていくことも必要ではないかと感じました。次年度以降も各組での取り組みの一助となるよう研修会の充実を図っていききたいと思います。※終了後、教区内の皆さまからお持ちいただいたフードバンクの食品を子ども食堂の食材として寄贈させていただきました。

2025(令和7)年度 布教団総会・研修会

期 日 4月17日(木)
会 場 本願寺山陰教室
教化センター 研修室
参加者 37名

総会では、前年度事業報告・決算報告・監査報告及び今年度事業計画案・予算案について審議され原案の通り議決されました。続く研修会では、安芸教区布教団参与の桑原浄昭師をお招きし、「従来の『領解文』に学ぶ」と題し、領解文の基礎知識・体裁・変遷経緯や本山での依用方法など歴史的背景を踏まえながらご講義をいただきました。特に、領解文の最後が法度段で締めくくられていることについては、昭和33年に制定された「浄土真宗の生活信条」を一例に出され、御同朋・御同行という同じお念仏に育ち同じお念仏を親しみながら人生を歩む仲間ということになると、時代時代に合わせ統一した規則なりルールのようなものがあっても良いのではないかと、というお話があり、印象深く聞かせていただきました。



仏教婦人会連盟 総会・研修会

期 日 5月12日(月)
会 場 松江テルサ
参加者 224名

松江テルサで仏教連盟の総会・研修会を開催いたしました。88の仏教婦人会から224名が参加されました。

総会では、令和6年度の事業報告・決算報告・監査報告の後に、本年度の事業計画案・予算案についてご審議いただきました。

特に令和6年度行事として、教区内の仏教婦人会の皆さまのみならず、多くの方のご協力によって、「山陰教区仏教婦人会連盟創立70周年記念大会」と「第63回中・四国地区仏教婦人会大会」の大きな大会を2つ開催したことを報告いたしました。

研修会では、仏教婦人会総連盟講師の朝戸 臣 講師を講師にお迎えし、「仏心とは大慈悲これなり」をお念仏



申す人生とは」と題し、丁寧なわかりやすくお話いただきました。

ここ数年は松江を会場に総会を開催していましたが、次年度は西部の方も多く参加できるよう会場の変更等も検討しております。多くの方のご参加をお待ちしております。

「勤式練習所」を受講して

出雲組 通傳寺 勝部 恵智子

5月28日(水)、山陰教区「勤式練習所」が、出雲市民会館で開催されました。私は、この度初めて受講させていただきました。

まず会場に入り、席についたとたん、思わず「場違いの所へ来てしまった」と、あたふたしてしまいました。それは何と、受講者は、僧侶・寺院の方々ばかりでありました。しかし、私は予てから勤式練習を受講してみたいと思っており、やっと念願が叶ったのです。

講義は、1部、2部とあり、講義の時間は2時間くらいでした。1部は、

勤式指導員・小原静伍師ご指導のもと始まりました。

講義内容は、正信偈の種類等について説明の後、草譜・行譜の唱え方のご指導をいただきました。小原先生のお話を聞いているうちに、ふと私が十数年前に組連研を受講したとき、いろいろ学んだことを思い出し、懐かしさがこみあげて参りました。先生のご指導をいただいた後は、全員で草譜・行譜を唱えました。

そして、2部のご講師は、勤式担当・朋澤融智師でした。講義内容は、正信偈の音の変化がある場所、割字の指示等とてもわかりやすくご指導いただきました。また、和讃の初重一首目から、二重三重と唱え方の説明をいただいた後は、全員で正信偈・和讃を会場いっぱい響きわたる大きな声で唱えました。

この度の受講によって、私の連研当時を思い出し、改めて正信偈・和讃を唱える喜びを味わい、学ぶ機会をいただきました。

今後も、勤式練習所を受講させていただきます。浄土真宗のみ教えとともに、歩んで参りたいと思っております。ありがとうございました。

合掌

中・四国ブロック 寺族青年軟式野球大会



6月13日(金)、中・四国ブロック寺族青年軟式野球大会が安芸教区担当のもと、Baicom BMW 野球場と草津公園球場の2カ所にて行われました。

山陰教区は人数の都合により、四州教区・山口教区・備後教区から数名参加いただき合同チームにて試合にのぞみました。

第1試合は、安芸教区と対戦しました。結果は3-4でサヨナラ勝ちしました。最終回まで3-0と厳しい状況が続いていたのですが、最後に打線が爆発し四州教区の龍田さんのサヨ

ナラヒットで勝つことができました。

2試合目は、安芸教区の「ファイヤーバーズ」と対戦いたしました。結果は5-6で2試合連続サヨナラ勝ちしました。こちらも最終回まで5-2で厳しい状況だったのですが、最後に打線に火が付き無事に勝つことができました。

試合前日の懇親会から戦いは始まっていた今回の野球大会。二日酔いなどのさまざまな試練がチームを襲いましたが、無事ケガもなく楽しく試合をすることができ、野球を通して親睦を深めることができました。

仏教壮年会連盟 総会・研修会



期 日 6月7日(土)
会 場 山陰教堂教化センター
研修会
参加者 64名

総会では、昨年度の事業報告・決算報告・監査報告、今年度の事業計画案・予算案について上程し、承認されました。また、副理事長退任に伴う役員改選についても、承認されました。

続く研修会では、仏教壮年会連盟講師の大松龍昭師(熊本教区種山組大法寺住職)から、「仏壮の原点確認」と題し、講義をいただきました。

「仏教壮年会綱領」には、「(前略)自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに

聞き(後略)」とあり、また、仏教壮年会のスローガンは、「ともに聞きまことのよろこびを伝えよう」です。

組織の拡大・拡充を図ることがついで目的化してしまいがちですが、本来、仏教壮年会の活動は、「お念仏を喜ぶ人を育てること」であると述べられました。

まず自らが聴聞の人生を歩むこと、そして、お念仏を喜ぶ人を一人でも多く育てることの大切さについて、改めて問い直す機会をいただきました。さらに、ご法事やご葬儀など、具体的な事例を交えながらお話をいただき、参加者一同、学びを深めることができました。

親鸞聖人御誕生 850年
立 教 開 宗 800年

慶讃法要記念
川勝オリジナル
(経本入・式章袋・念珠袋)

御本山用達
株式会社
川勝法衣店
〒600-8344 京都市下京区花屋町通油小路東入

TEL.0120-075-055
TEL.075-371-0367(代)
FAX.075-371-5088

井筒法衣店
600-8468
京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)
Tel 075-351-1234
0120-075-720
Fax 075-341-7905

新 感 覚
超軽量 超速乾
伸縮性 抗菌・防臭

メッシュ地 通気性抜群
快適! 夏用作業衣

C3048 **MINO** **メッシュ**
老舗ジャージメーカー・カネマス×井筒法衣店 制作
洗濯機で洗った翌日に着用可能な高機能作業衣です
色/黒・紺・オリーブ
オンラインショップは
こちらから →

第4連区布教使研修会

鳥取因幡組

願正寺

衣きぬ笠がさ宗むね法のり

7月1日(火)・2日(水)、標記研修会が山口教区担当のもと、かめ福オンラインス(山口市)にて開催されました。

研修(一)は、伯水永雄師による同朋研修があり、寺院における過去帳取扱いの重要性及び寺院現場における差別について、過去の事例を紹介されました。この講義では、「差別発言及び行為があった事実を認めただえで、二度と行わないという猛省と、阿弥陀さまのお慈悲をとともにいただく者として、自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献すること。」という僧侶としての生き方を教示くださったように思います。

差別は「どこか遠くの誰かの話」ではなく、知らず知らずのうちに心の中に潜んでいるものです。心の中の言葉は、使い方を誤ると他者を傷つける凶器にもなります。我々僧侶は言葉をもって阿弥陀さまのお心をお取次ぎさせていただきま。必ず救うという阿弥陀さまの尊いおはたらきを邪魔することのないよう、言葉を慎重に選びお取次ぎをさせていただくこと、「終身僧侶の自分を守り、勉強布教を怠らないこと」と、得

度誓約を立てさせていただいたように、教学はもとより、あらゆることを学び続けることの大切さを強く感じました。

研修(二)は、佐々木義英 和上から御本典概論の御講義がありました。まず、佐々木和上の携わってこられた聖典編纂事業から、『註釈版聖典』『聖典全書』『現代語版聖典』の関連性等を踏まえた御聖教の読み方をご解説くださいました。

御講義の内容は、「教・行・信・証・真仏土」の順に真実五願に基づき、御本典の原典もご覧になられたうえで、の宗祖のお心を大変丁寧に解説くださいました。心に残ったのは「阿弥陀の果徳は、私の成仏があつてはじめて果徳となる」という言葉です。私を救おうとおはたらきくださる如来さまのお慈悲を大変嬉しく感じました。

質疑応答にて、「還浄」について質問があり、佐々木和上は、「阿弥陀さまのおはたらきによって迎えていただく、阿弥陀さまの側から、本来あるべきところに還す」と回答されました。どこへいくのかもわからない私のいのちを決して洩らすまい

と、おはたらきくださる阿弥陀さま、その教えを弘め伝えてくださった先達方へ感謝の気持ちでいっぱいになり、大変尊いお育てをいただくご縁でありました。



エコキャップ収集運動にご協力ください

山陰教区では、御同朋の社会をめざす運動(実践運動)の取り組みの一環として、「エコキャップ収集運動」を実施しています。

「エコキャップ収集運動」は使用済みエコキャップ(ペットボトルのキャップ)をリサイクルメーカーに売却した代金で、世界の子どもたちにワクチンを届ける運動です。

7月末までに、約330kgご協力いただきました。

※お持ちいただくキャップは、軽く洗い、飲料や汚れを落としてください。



新入職員紹介

2025(令和7)年6月から、山陰教区教務所に職員が入所しました。

○藤原 美乃里(臨時職員)

所属寺：神門組 正善寺

教区の皆さま、どうぞよろしくお願いたします。

2024 (令和6) 年度 山陰教区一般会計 歳計決算

自 2024 (令和6) 年 4 月 1 日
至 2025 (令和7) 年 3 月 31 日

【歳入】

款	項	2024年度決算額	2024年度予算額	対比△減
1	教区賦課金	33,888,225	33,888,225	0
1	1 本年度賦課金	33,888,225	33,888,225	0
2	2 過年度賦課金	0	0	0
2	宗派助成金	13,037,594	13,000,000	37,594
1	1 宗派助成金	13,037,594	13,000,000	37,594
3	願記手数料	1,714,500	1,800,000	△ 85,500
1	1 願記手数料	1,714,500	1,800,000	△ 85,500
4	回金	2,350,664	2,365,300	△ 14,636
1	1 回金	2,350,664	2,365,300	△ 14,636
5	雑収入	1,658,843	1,504,563	154,280
1	1 雑収入	1,658,843	1,504,563	154,280
6	前年度繰越金	11,791,912	11,791,912	0
1	1 前年度繰越金	11,791,912	11,791,912	0
歳入合計		64,441,738	64,350,000	91,738

【歳出】

款	項	目	2024年度決算額	2024年度予算額	対比※超過
1	教区事業費		13,830,687	14,927,000	1,096,313
1	1 総合教化企画費		2,276,022	2,500,000	223,978
1	1 御同朋の社会をめざす運動推進費		2,276,022	2,500,000	223,978
2	2 教化費		5,319,798	6,080,000	760,202
1	1 寺院機能振興費		508,552	730,000	221,448
2	2 婦人青少年費		1,528,000	1,650,000	122,000
3	3 総代・壮年費		300,000	300,000	0
4	4 研修費		1,724,972	2,000,000	275,028
5	5 矯正福祉費		300,000	350,000	50,000
6	6 文書伝道費		953,362	1,000,000	46,638
7	7 教化活動費		4,912	50,000	45,088
3	3 助成費		6,134,867	6,147,000	12,133
1	1 布教団助成金		530,000	530,000	0
2	2 各種団体助成金		608,000	620,000	12,000
3	3 地方教化助成費		3,996,867	3,997,000	133
4	4 組教化助成費		1,000,000	1,000,000	0
4	4 災害対策費		100,000	200,000	100,000
1	1 災害活動費		100,000	200,000	100,000
2	2 会議費		1,591,434	1,780,000	188,566
1	1 会議費		1,591,434	1,780,000	188,566
1	1 教区会議費		1,216,836	1,300,000	83,164
2	2 組長会費		369,898	400,000	30,102
3	3 各種会議費		0	50,000	50,000
4	4 職員会議費		4,700	30,000	25,300
3	3 教務所費		21,329,408	22,263,000	933,592
1	1 人件費		16,713,183	16,953,000	239,817
1	1 教務所職員俸給		10,018,800	10,100,000	81,200
2	2 賞与		2,292,700	2,293,000	300
3	3 退職交付金		0	10,000	10,000

【歳出】

款 項 目		2024年度決算額	2024年度予算額	対比※超過
	4 福祉費	2,323,213	2,400,000	76,787
	5 諸手当	2,028,470	2,100,000	71,530
	6 教区勤式指導員事務費	50,000	50,000	0
2	事務費	3,671,717	4,050,000	378,283
	1 通信印刷費	1,652,997	1,700,000	47,003
	2 事務消耗品費	684,391	750,000	65,609
	3 事務諸費	1,145,404	1,300,000	154,596
	4 備品費	188,925	300,000	111,075
3	旅費	601,687	800,000	198,313
	1 交通費	601,687	800,000	198,313
4	諸費	342,821	460,000	117,179
	1 慶弔供奠費	80,000	100,000	20,000
	2 接待費	4,425	10,000	5,575
	3 渉外費	104,000	150,000	46,000
	4 雑費	154,396	200,000	45,604
4	回金	15,694,364	15,755,300	60,936
1	回金	15,694,364	15,755,300	60,936
	1 山陰教堂運営費	13,393,700	13,450,000	56,300
	2 災害対策費	1,000,000	1,000,000	0
	3 退職積立金	0	0	0
	4 子ども・若者推進事業費	50,000	50,000	0
	5 「各種法要」積立金	1,250,664	1,255,300	4,636
	6 平衡資金	0	0	0
	7 慶讃法要費	0	0	0
5	宗会議員選挙費	876,441	900,000	23,559
1	宗会議員選挙費	876,441	900,000	23,559
	宗会議員選挙費	876,441	900,000	23,559
6	予備費	0	8,724,700	8,724,700
1	予備費	0	8,724,700	8,724,700
歳出合計		53,322,334	64,350,000	11,027,666

歳入合計	64,441,738
歳出合計	53,322,334
差引残高	11,119,404

伝統ある京佛具を後世に伝えたい

浄土真宗本願寺派仏具専門店
寺院用 在家用 仏壇 仏具 記念品

株式会社
 古田 佛具製作所

〒600-8328 京都市下京区正面通西洞院東入ル蛭子水町609
TEL(075)343-2341 FAX(075)343-0836
フリーダイヤル 0120-178-413
フリーファックス 0120-343-036

ドレミファ組

川本組 実践運動の取り組み

川本組組長 福井義信

川本組は川本町と美郷町と桜江町に跨る15ヶ寺の小さな組である。過疎化、核家族化、後継者不在、気が付けば空き家だらけの状況は川本組だけの問題ではない。これまで繋がってきたお念仏の教えを、子や孫へ伝えていくことは大変難しい状況になっている。

川本組では、組独自の重点プロジェクト目標を「お念仏のよろこびを世代を越えて伝えていこう!」として、子どもたちの活動に力を入れている。

春には「子ども花まつり」、夏は「仏の子サマースクール」、秋は「子ども報恩講」を行っている。特に子ども花まつりは24年も続く恒例行事となり、子どものときに参加された保護者もいる。手作りの白象を引っぱり町中をパレードする。大切にしていることは、保護者の方々にも本堂にお参りし焼香をしていただくことである。子どもの行事をご縁に、若い方が少しでもお寺に足を運び、お寺を身近に感じていただけたらと願っている。

組の仏壮研修会では、お寺を離れ、少し違った形での伝道を試みている。「スペシャル坊ズコンサート」や「笑福亭仁智落語会」、「ドキュメンタ

リー沖縄戦上映会」、今年は「雅楽コンサート」を計画しご門徒以外の方々の参加も期待している。

報恩講シーズンには、「報恩講巡り」を実施し、3ヶ寺以上にお参りされた方には記念品をお渡ししている。同時にお願する「子どもたちの笑顔のために募金」や「フードバンク」への協力も定着してきた。

実践運動研修会では、環境問題(SDGs)、人権問題などさまざまな社会問題について研修し、参加者一人ひとりがどう動かなければならないかを考える場としている。今年は戦後80年。安芸教区から叶裕子師をお迎えし「平和学習会」を計画している。

「消える寺 残るお寺も 消える寺(本願寺HP)」、昭和63年放送の「NHK特集 寺が消える」で取り上げられた川本組。現在5ヶ寺が住職不在、状況はさらに厳しくなっている。住職の高齢化や、後継者問題、門信徒の減少と、この状況下に打開策は簡単には見つからない。この著しい変化に柔軟に対応していけるかが生き残りのカギだと信じ、できることをやるだけである。

連載第1回

仏法とともにくすべての人とつながるためにく

実践運動オンライン担当 担当長 兜坂彰英

3月に実践運動教区委員会伝道広報部会オンライン担当の担当長を拝命しました、鳥取伯耆組 妙寂寺の兜坂と申します。

今号から、デジタル技術に関する話題を連載させていただくことになりました。皆さまのお寺でデジタル技術を活用いただく一助となればと願っております。どうぞよろしくお願いたします。

「どなたでもお参りください」言葉の重み

「どなたでもお参りください」——私はこの言葉をよく使います。多くの方にお参りいただきたいという願いから自然と出てくる言葉ですが、改めてその意味を考えると、深く反省させられます。

お寺を預かる者として、本当に「どなたでも」お参りいただける環境が整っているのか。現実には、そうではありません。

境内には段差が多く、本堂へ上がるスロープもなく、車椅子や歩行が難しい方には厳しい造りです。冬は底冷えし、夏は冷房がないため熱中症の不安もあります。

「できごと」から始める

もちろん、物理的なバリアフリー化には大きな費用と時間がかかります。すぐにすべてを整えるのは難しいことです。だからこそ、今は「できること」から始めています。

その一つが、デジタル技術の活用です。最近では「空さえ見れば高速通信が可能」と言われる『スターリンク』のような通信環境の整備が進み、地方でも都市と変わらぬ情報発信ができるようになりました。

このような技術の力を借りて、「ここにお寺がある」という存在を知っていただくための広報・仏法をお伝えする新たなチャンネルの開拓

・お寺に直接足を運ぶことが難しい方ともご縁を結ぶ機会の創出
これらは、これからの時代に求められる「開かれたお寺」の在り方を模索する一歩になるのではないのでしょうか。次回からは、具体的なデジタル技術の活用をご紹介して参ります。

オンライン担当ではメンバーを募集しています。切磋琢磨しながらお寺とデジタル技術について学びを深めませんか？ 初心者歓迎。興味のあ

千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要 「平和の鐘」実施にご協力を

期日 2025 (令和 7) 年
9 月 18 日 (木)

〈平和の鐘実施時間〉

午後 1 時 20 分～午後 1 時 25 分

千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要では、宗門として恒久平和への願いを新たにするため「平和の鐘」を撞きます。

「平和の鐘」は、仏のみ教えと、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で誓われる平和への決意を、日本国内外に響かせ届けたいという願いのものと始められました。

今年には戦後 80 年を迎えます。宗門が一体となって平和への思いを新たにするため、各寺におきまして、法要と同時に（午後 1 時 20 分～午後 1 時 25 分）に、梵鐘（または喚鐘など）を撞いていただきますようお願いいたします。

※詳細は、本願寺ウェブサイトをご参照ください。



フードバンク活動報告

ご協力いただいた団体・個人から
453 件（延べ数）
届けていただいた食品・日用品の
数 3600 品

お米 約 1600 kg、

お菓子 約 1530 食、

インスタント食品 約 1400 食、

缶詰 約 350 個、

調味料 400 個、

飲料水 約 700 本

その他日用品（洗剤・タオル等）

これまで 68 回に亘り山陰両県の団

体へお渡ししました。（お菓子・レト

ルト食品・カップ麺が喜ばれたとのご

連絡をいただきました。）※賞味期限

によつては、お受けできない場合がご

ざいしますので、ご注意ください。

今後も継続して実施いたしますの

で、ご協力をお願いいたします。

○届けていただきたい食品

お米・レトルト食品・インスタ

ント食品・缶詰・瓶詰・乾麺・のり・わ

かめ・昆布・粉末食品（お茶漬けの

素・味噌汁・ふりかけ等）調味料（醬

油・砂糖・麵つゆ・塩・味噌・酢・食

用油等）・菓子など

○注意いただきたい事項

・賞味期限が明記されており、1ヶ

月以上あるもの（団体によつては

3ヶ月以上）



職員

先日、目の視野

検査を受けまし

た。40 歳を過ぎる

と緑内障など目の

病気が発症しやす

くなると言われ、

隔年で受けていま

す。検査形式は、5

分間、検査機器の中

で一点を見つ

めながら、周りに

現れる黒点が見

えたらボタンを押

すものです。異

常を診断されるの

ではと緊張し

ましたが、結果は

問題ないとのこ

とで安堵しました。

省みると、視野に

異常がなくな

ても、異なつた意

味で視野が狭く

なることがあります。

教務所の仕事

で他の職員が作

成した書類に不

備や間違いがな

いか確認する

と

きが

あります

が、逆に私が

作成

した書類で、

他の職員から

是正さ

れたときは、

自分の視野は

狭くて

不確かなもの

だと反省させ

られました。

特に慌ててい

るときや気

が緩んでいる

ときは、間違

いに気が付

き難いのです。

二人以上の目

で確認するこ

とも間違いの

抑止

になります

が、まずは私

自身、慌

てず緩めず、

時には自分の

目を疑

いながら、任

された仕事に

向き合

いたいと思

います。

(Y・G)

オフィスの身近な応援団！

For the best service company.

Mic 株式会社 ミック

本社 〒690-0826 松江市学園南 2-10-14 タイムプラザビル 1F

TEL 0852-27-0329 FAX 0852-27-0376

支店 / 出雲・雲南・大田・浜田・益田・山口

<https://www.mic-ltd.co.jp>

印刷と出版でできること。

編集・デザイン・印刷・出版のプロとして

様々なソリューションを提供する。

人と向き合い、地域と向き合い一緒にやっていくこと。

それが私たちにできる、地域貢献のカタチだと考えています。



お客様の良き相談相手になることを目指します
株式会社谷口印刷

ハーベスト出版



中央仏教学院通信教育同窓会山陰支部の結成40周年記念大会を3月25日(火)、山陰教室で行いました。隠岐の島をはじめ山陰の遠近各地から参加をいただきました。また、来賓として、山陰教区教務所長 晨利信様、結成時役員 萬行寺前住職 巖紀恵子様、記念講演 講師 神門組 乗光寺 住職 北島清秀師にご臨席いただきました。

まず、物故会員追悼法要を小川喜多男 前支部長の調声で『仏説阿弥陀經』により勤修し、記念式典に移りました。支部長式辞の後、福岡義朝 中央仏教学院長のご祝辞の紹介があり「山陰の地にはご法義という宝があります。この宝を次の世代に向け護ってください。」とお言葉をいただきました。続いて、晨利信 教務所長から「私たちは、たまたま人として生を受け、ご縁があつて浄土真宗のみ教えに出遇い、中仏で学びの機会に恵まれました。多くの先人の苦勞により、お念仏を申す日暮らしができる尊いご縁をいただいたことを喜ぶばかりです。先人から受け継いだお念仏のみ教えを次の世代に繋いでいくことと、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に努めましょう。」とご祝辞をいただきました。

次に記念講演「包まれている安心に支えられて」と題して、乗光

寺 住職 北島清秀師から「中仏で掲げられている『学仏大悲心』とは、阿弥陀さまのお慈悲のお心を学ばせていただくという意味です。」「いろいろな事例を挙げわかりやすく「阿弥陀さまのおはたらき」についてお話いただきました。

「『必ず救うわれにまかせよ』と

結成40周年記念大会

中央仏教学院通信教育同窓会
山陰支部 支部長
す だ か つ じ
須 田 勝 治

の阿弥陀さまのご本願、ご本願が私に届いてご信心、そしてご信心から『南無阿弥陀仏』とお念仏が私の口から出る。阿弥陀さまとともにあるとは、慈愛に満ちた母親に抱かれた幼子のように阿弥陀さまの胸に抱かれてある安心の中でお育ていただいているのです。」とお話をいただきました。



参加された方からは「通信教育の学びは、お念仏とともに、法のはたらきに気付き目覚めた人(法友)を通してお育ていただき嬉しうた。今日も本当にありがたいご縁となりました」との喜びの声をいただきました。

山陰支部は昭和60年に結成されました。浄土真宗のご法義を連綿と受け継がれた先人の方々に深く感謝し、今この時しか聞けない学びを自分のものとし、次の世代へ続くよう力を合わせて参ります。最後となりましたが、多くの皆さまのご支援、ご協力をいただきましたこと、心からお礼を申し上げます。今後ともよろしくお願ひ申しあげます。

編集後記

最近、よく耳にする言葉に「連携」という言葉があります。基本的には肯定的な印象を持つ言葉ですが、ときに、自らの責任を放棄するために使われる「連携」や、他人の仕事を奪う意味で使われる「連携」もありはしないでしょうか。内実を見極める必要がある注意すべき言葉ではないかと感じています。

また、最近よく主張される言葉として「生産性」という言葉があります。私が従事している介護・福祉の分野においても、ことあるごとに「生産性」を高めるよう言われ続けています。事務的分野を効率化し、人手をかけずに介護事業を構築しなさいという意味なのかとも思いますが、人間の根源的尊厳に寄り添う仕事のメインテーマが、「生産性」であるわけはありません。こちらは、抵抗する必要がある注意すべき言葉ではないかと感じています。

(O・M)

